

## 第2回塩竈市総合教育会議 概要報告

1. 日 時 平成30年10月24日(水)  
開会 13時30分 閉会 15時00分
2. 会 場 杉村惇美術館 講習室1
3. 出席者 塩竈市長 佐藤 昭  
塩竈市教育委員会  
教育長 高橋 睦麿  
教育長職務代理者 柴田 仁市郎  
委員 太田 忍  
委員 池野 暢子  
委員 佐浦 弘一

### (事務局)

市民総務部長	小山 浩幸
市民総務部政策課長	相澤 和広
市民総務部政策課企画係長	引地 洋介
教育部長	阿部 光浩
教育部教育総務課長	本田 幹枝
教育部学校教育課長	遠山 勝治
教育部生涯学習課長	伊藤 英史
教育部市民交流センター館長	伊東 英二
教育部教育総務課総務係長	扇谷 剛四
教育部生涯学習課主幹	菅原 靖彦
教育部教育総務課総務係主査	工藤 貴裕

4. 協議事項
- 議題1 平成30年度予算における教育分野の主な取組について
- ① 塩竈市独自の小中一貫教育の推進について
  - ② 勝画楼保存活用推進事業について
  - ③ 塩竈アフタースクール事業（わくわく遊び隊）について
  - ④ その他（学校施設の空調設備、ICT整備について）
- 議題2 市民交流センター（市民図書館）運営のあり方検討中間報告について
- 議題3 次期塩竈市教育大綱について

5. 概要

- 開会
- 佐藤市長あいさつ
- 出席者紹介
- 協議事項

**議題1 平成30年度予算における教育分野の主な取組について**

- ① 塩竈市独自の小中一貫教育の推進について

（発表者：教育部学校教育課長 遠山 勝治）

塩竈市独自の小中一貫教育の取組状況について、意見交換をおこなった。

**【主な意見】**

〈柴田委員〉 塩竈市独自の小中一貫教育、学びの共同体については、始まったばかりの取組であるので、直ぐに結果を求めることはいけないことだが、見つかった課題については、早急に克服する努力をしていただきたい。また、学校間で格差が出てしまうことが心配であるので、学校間での指導力の差が出ないように進めていただきたい。学校教育と家庭教育については、教育大綱でも学校・家庭・地域の連携と三つの基本方針で謳っており、重要なものと考えている。家庭と学校との連携というものが、一番難しいことであるとは思いますが、学校と家庭が共に教育をしていくということを家庭に理解してもらうための取組を具体的に示してほしい。

〈佐藤市長〉 柴田委員からご意見をいただいた、一つ目は学校間のバラツキの問題、二つ目は、家庭教育について、例えば、学校から家に帰った後、少なくとも1時間程度は、予習・復習の時間として取っていただきたいという取組をしていると理解しているが、その二点について、学校教育課長から説明をお願いします。

〈遠山学校教育課長〉 学校間の格差については、三小、三中の学びの共同体の授業研究を校内の教員だけで共有するのではなく、他の学校の教員も参加してもらい、市内小中学校教員全体で共有するようにしており、ズレや格差が生じた場合、直ぐに修正できるように対策をしているところである。家庭教育については、本市の児童生徒の場合、家庭での予習・復習に割く時間が全国的にみても少ない傾向にあることは把握している。今までも、ふれあい運動を通して、家庭に対し学習の時間を取っていただきたいとの話はさせていただいているが、中々、時間が伸びてこないというのが現状である。要因としては、メディア・スマートフォンに対する依存というのが大きいと感じている。実際にこの値については、全国値を大きく上回っているのが現状である。その対策として、アルカス塩釜の中で、子供達自身がメディ

ア・スマートフォンへの依存対策についての会議をおこない、子供達自身が定めたルールに基づいて改善していこうという取組を学校としておこなっているところである。

〈池野委員〉 新しい教授法について、イメージがつかめない教員が散見されるとのことだが、対策等は実施しているのか。

〈遠山学校教育課長〉 対策については、昨年度から進めており、各校二名ずつ先進地である牛久市へ行き、授業を視察した後、実際に学校に戻り再現してもらっていたが、それだけでは他の教員がイメージしづらいということや、視察に行った教員も一度見ただけでは、身に付かないということもあった。そこで、本年度は第二回目となるが、昨年度視察に行った教員とは別の教員を視察に行かせたり、大学の教授を招いて教授法について講義をしていただいたりしており、教員が学びの共同体の教授法を理解できるような取組を今後も実施していきたい。

〈柴田委員〉 教育に正解は無いが、今現在ではベターだということで、学びの共同体による授業づくりを実施しているが、数年後には問題点や欠点が出てくると思う。毎年、問題点について改善していきながら、より良い授業づくりをしてもらいたい。

〈佐藤市長〉 柴田委員が仰るように、教授法については、日進月歩だと思う。塩竈市として他市に学ばせてもらうだけでなく、他市から学びに来たいと言ってもらえるように取組を教育長と共に進めていきたい。

〈太田委員〉 実際に授業参観に行ったが、今までの教授法は黒板に向かったの授業で、わからない子はそのままだってしまっていたが、学びの共同体の教授法だと、周囲の子供達同士で教え合ったりしていた。とても良い形だと感じた。家庭教育については、共働きの家庭が増えており、家庭で子供の学習について、見てあげることができなくなっており、難しい課題だと感じた。

〈佐藤市長〉 家庭で子供の学習を見てあげられる家庭と見てあげられない家庭との差を縮めるためにチャレンジ教室という取組を実施している。学校教育課長から説明をお願いします。

〈遠山学校教育課長〉 太田委員が仰るように、子供の学力を伸ばすうえでは、家庭教育というものが重要になってくる。現状どうかというと本市の場合、一人親家庭は小中学校合わせて、全体の18%となっており、県内トップクラスとなっている。また加えて、共働きの家庭がほとんどであるため、家庭で子供の学習を見てあげる時間が少ないという状況にあると捉えている。チャレンジ教室では、週二回、90分ではあるが、子供達は楽しく勉強しているようである。

〈柴田委員〉 放課後の時間に子供達を集めて宿題を見てあげるような取組が必要になってくるのではないかと。

〈佐藤市長〉 学校に通うお子様をお持ちの佐浦委員からの意見を伺いたい。

〈佐浦委員〉 チャレンジ教室と学校との連携はどのようになっているのか。また、家庭や地域とどのように連携を図っていくのか取組について伺いたい。

〈遠山学校教育課長〉 チャレンジ教室と学校との連携については、教員が多忙ということもあり、連携については図れていない。家庭・地域との連携については、授業の中に保護者の方や地域の方を入れて、一緒に子供達を指導していくことを考えていきたい。

〈佐浦委員〉 チャレンジ教室と学校との連携については、チャレンジ教室での子供達の様子などを学校に対して知らせる仕組みが必要だと思う。家庭・地域との連携については、共働き

の家庭が多いので、難しい課題だと感じている。PTA 活動についても積極的に活動する方が年々少なくなっている現状の中で、授業の中に保護者の方も入ってもらうとすると、負担が増えると感じる家庭もあるのではないかと。如何にして、家庭・地域の方々が子供達の教育に対して関心を持ってもらえるような雰囲気を醸成していくかが重要になってくると感じた。

〈太田委員〉 わくわく遊び隊は多くの子供達が参加し、大変好評を得ている。わくわく遊び隊のように地域の方々から協力をいただきながら、中学生が小学生に勉強を教えるような方法もあるのではないかと。

〈佐藤市長〉 地域のボランティアの方々では、子供達の育成に関わっていただける団体が今のところ五つあると聞いている。そうした方々との輪が広がっていくことが大切であると考えます。最後に教育長からの意見をお願いします。

〈高橋教育長〉 始まったばかりの取組であり、教員一人一人が当事者意識を持って取組んでいくという気持ちにさせるのが大切だろうと感じている。家庭教育については、保護者の方には、子供主体の家庭づくりをしていただきたいというのが、教育委員会としての願いである。学校での子供達の様子を見ていただくことで、家庭教育について考える機会にさせていただきたい。また、家庭・地域との連携では、様々な地域で様々な取組がなされている。山形では、おじいさん方を授業サポーターとして、先生方と一緒に授業をしているという取組もあると聞いている。今後、本市としても様々な仕掛けをしていきたい。

② 勝画楼保存活用推進事業等について

(発表者：教育部生涯学習課長 伊藤 英史)

③ 塩竈アフタースクール事業（わくわく遊び隊）について

(発表者：教育部生涯学習課長 伊藤 英史)

④ その他（学校施設の空調設備、ICT 整備について）

(発表者：教育部教育総務課長 本田 幹枝)

事業の概要を説明した後、意見交換をおこなった。

〈柴田委員〉 わくわく遊び隊について、子供達が与えられたメニューをするだけでなく、子供達同士がメニューを考えて活動するという事になれば良いと考えている。その点を踏まえながら、指導していただけたらと感じている。

〈佐藤市長〉 玉小では、子供達の自由を尊重した形で取組んでいるところもあるが、子供達の安全を確認しながら取組まなければならないことから、今後の検討課題とさせていただきたい。

## 議題 2 市民交流センター（市民図書館）運営のあり方検討中間報告について

(発表者：生涯学習課主幹 菅原 靖彦)

報告の後、意見交換をおこなった。

### 【主な意見】

〈柴田委員〉 満足度調査について、満足とやや満足をして 67%だったとのことだが、満足だ

けだと何%か。

〈伊東市民交流センター館長〉 内訳は満足 27%、やや満足 40%となっている。

〈柴田委員〉 満足した方が何に対して満足したのかを知る必要があるのではないか。

〈佐藤市長〉 満足度調査については、来場者に対しておこなったもので、市民に対しておこなったものではない。したがって、来場していない方がなぜ、来場しないのかという調査も必要なのではないかということを示したところである。宮城県市長会で気仙沼市の施設を見学する機会があった。気仙沼市では、図書館と子育て施設が併設されており、多くのお母さん方が図書館を利用していると聞いた。図書館単体での集客が難しくなっているというのは近隣の状況を見ても明らかであるので、今後そうしたことも検討すべきだろうと考えている。

### 議題 3 次期塩竈市教育大綱について

(発表者：教育部教育総務課長 本田 幹枝)

報告の後、意見交換をおこなった。

#### 【主な意見】

〈佐藤市長〉 長期総合教育と教育大綱との策定期間にズレがあるので、その部分をどのように調整するか事務局で検討し、事務局が整理したうえで、改めて委員の皆様にはご議論いただきたい。

○閉会